

令和 6 年 3 月 吉日

世田谷区立芦花小学校
学校長 石田 孝士 様

世田谷区立芦花小学校
学校関係者評価委員会
委員長 柴田 薫

令和 5 年度 世田谷区立芦花小学校 学校関係者評価 報告書

世田谷区立芦花小学校学校関係者評価委員会では、令和 5 年度学校関係者等の評価アンケート結果ならびに学校自己評価報告書、授業や行事の参観、先生方との懇談などをもとに、令和 5 年度の評価報告書を作成しましたので、ここに報告いたします。

今年度の学校経営方針は、『地域とともに豊かな人間関係を築き、一人一人の子どもが自己実現できる』学校をめざして進めてこられました。石田校長先生のリーダーシップのもと、子どもたちが 1 年間充実した学校生活を過ごすことができたことを高く評価しています。

更なる教育活動の充実を目指し、本報告書を令和 6 年度の学校運営にお役立てくださいますよう、お願いいたします。

I 学校関係者等アンケート結果について

以下の通り、今年度の学校関係者等アンケートを実施しました。結果の詳細は、学校ホームページ掲載の学校関係者等アンケート結果報告をご参照ください。

(1)調査実施期間:令和 5 年 11 月 13 日(月)～11 月 27 日(月)

(2)回収方法:電子(地域のみ 郵送・持参あり)

(3)対象者及び回収状況:

	対象者数	回収数	回収率
児童(5・6 年生)	333	325	97.6%
保護者(全学年)	1,014	635	62.6%
地域(学校協議会構成委員)	80	50	62.5%

令和 4 年度は、保護者の回収率が 34.2%だったが、今年度は、提出件数を把握できるようになったこと、アンケート配付後に「学校-家庭-地域をつなぐ連絡システム『すぐる』」を活用し、提出を 2 回呼びかけたことが功を奏して 62.6%となった。児童の回収率については、新型コロナウイルス感染症が 5 類になったとはいえ、インフルエンザ等の感染症の流行時期とも重なり、97.6%となった。

地域の対象者は、昨年度に引き続き、本校近隣の方に限定した上で、返信用封筒に切手を貼付し、更なる提出のしやすさを考慮した。

(4)調査項目：

前年度と同じく世田谷区共通の 67 項目(児童対象:20 項目・保護者対象:33 項目・地域対象:14 項目)に、本校独自の 24 項目(児童:10 項目・保護者:10 項目・地域:4 項目)を加え、計 90 項目の調査を行った。

独自項目には、今年度の学校経営方針を意識した内容を加えた。また、芦花小学校学校運営委員会が実施している『あいさつキャンペーン』と『脱ワンワード』に関する項目は、前年度と比較をするために、今年度も文言の変更は行わなかった。児童向け調査については、今年度も世田谷区が調査対象としている5年生及び6年生のみを対象に行った。

評価アンケート集計結果については、添付した別紙報告のとおりである。

II 重点目標の成果評価

今年度は、「地域とともに豊かな人間関係を築き、一人一人の子どもが自己実現できる」学校をめざしてという方針から、(1)子どものための学校、(2)教員が「プロ」として互いに高め合う学校、(3)地域・保護者と協力して連携する学校、(4)『キャリア・未来デザイン教育』の推進(「せたがや探究的な学び」「キャリア教育」の推進)、(5)危機の予測・回避・管理の 5 つの重点目標がかかげられた。

保護者アンケートにおいて、「私は、今年度の学校重点目標を理解している」は、46.5%と低かったが、「本校は、保護者に重点目標を伝えている」では、肯定的回答が 75.8%(昨年度比-2.6 ポイント)であった。先生方の自己評価報告書では、「本校では保護者・地域へ重点目標を十分に説明している」について、全ての教員が肯定的に回答し、今年度着任された先生方からは、「つながりの多い学校」という印象があるとの報告もあった。

(1)子どものための学校

保護者アンケートでは、学習・生活・学校行事等「子どもたちのための学校」としての評価は、おおむね肯定的である。また、学校自己評価報告書でも、「地・徳・体のバランスがとれ、それぞれが思い描く未来を実現できる児童の教育に取り組んでいる」は、全ての教員が肯定的に回答していた。児童アンケートの「先生」に関する設問では、肯定的意見が多いことから、先生方が重点目標として働きかけていることは、児童にも届いていることが読み取れる。

○縦割り班活動「芦花っ子タイム」は、取り組み 2 年目も月 1 回程度の実施が報告された。児童アンケートの「私は、芦花っ子タイムを楽しみにしている。」では、5年生(76.3%)・6年生(75.0%)ともに前年度より肯定的回答となった。高学年が低学年に、やさしく接している場面が見られ、学校公開時の開催にあわせ保護者参観も実施された結果、「心が温かくなった」等の声も得られたとの報告があった。異学年交流によって、豊かな人間関係を築き、自己有用感を高める活動となるよう、今後に期待する。

○代表委員会「芦花ラス会議」は、4~6年生の代表で構成されているが、「芦花ラス会議」を開催し、芦花小学校の合言葉を「日本一楽しく協力し合える芦花小学校」と決め、オリジナルの替え歌の作成など、全児童

が楽しく同じ方向を向いて学校生活が過ごせるように活動しているとの報告があった。学校関係者評価委員会では、「子どもが主体となって動ける体制づくり」を評価し、今後も継続していただきたい。

○放課後学習支援教室「寺子屋クラブ」は、今年度も2～3年生を対象に、前期・後期の2期で補充教室として進められている。今年度も、より多くの子どもを指導できる場所づくりを行っていただけた。芦花小学校の講師の先生方や保護者等による学習ボランティアの参加をお願いしながら定着してきたことから、個別に指導する機会が増え、児童の学習の基礎基本の定着が進んだと報告があった。今後も継続して行っていただきたい。

○『少人数指導』では、少人数指導の改善として正規の少人数指導担当教諭に加え、都費講師を更に増やしたことで、3～6年生において、きめ細やかな指導ができ、向上につながったとの報告があった。今後も、個に応じた指導をより一層充実させ、その学年での基礎的な学力の確実な習得を目指していただきたい。

○『体力向上の取組』では、「なわとび月間」や「持久走月間」など検定カードを活用したり、休み時間に全校児童が運動できるような取り組みが報告されていた。児童が意欲的に取り組み、体力向上を目指したくなるような取り組みを今後も進めていただきたい。

(2)教員が「プロ」として互いに高め合う学校

○今年度の『校内研究』では、2年目の特別活動として、『互いのよさを認め合う児童の育成～主体性を育てる学級活動を通して～』を研究主題に行ったと報告されていた。学年に合わせた目標や方法を決め、指導の工夫を行いながら、年7回の研究発表授業が実施され、今年度も、子どもたちが主体的に活動できるように進めることができたとの報告があった。自己評価報告書の「本校では、『教員がプロとし互いに高め合う学校』のために、教員集団として組織的に児童を指導している」では、100%の肯定的意見となっている。今年度の研究成果を基に、次年度に向けて進めていっていただきたい。

(3)地域・保護者と協力して、連携する学校

○「年間通したあいさつ運動の実施」では、あいさつキャンペーン週間を復活させ、保護者や芦花わんわんパトロール登録のワンちゃん、地域の方々の参加もあり、実施することができた。6年生が先頭になって、地域の方々と校門に並び、あいさつを交わす姿を見ることができ、「あいさつカード」を活用したふりかえりも行っているとの報告があった。今後も学校・保護者・地域が一体となって、「いつでも、みんなであいさつする」芦花小学校であり、「人との関わりを大切にできる」芦花の子どもたちの育成をお願いしたい。

○『脱ワンワード』運動の実施は、本校の取り組みとして13年目を迎え、「単語ではなく文章で会話をする」、「自分気持ちを素直に言葉で話すことができる」取り組みとして徐々に定着され、アンケートでも家庭内の会話の見直しのきっかけになっていると報告があった。実施期間だけではなく、文章で会話をする取り組み『脱ワンワード』を、普段から取り組めるように今後も学校と家庭で連携し取り組むことができるよう継続していただきたい。

○「地域運営学校」では、学校支援コーディネーターと年度初めに相談しながら、地域の人材や施設を活用した活動を行ったとの報告があった。地域対象のアンケートでは、「学校の活動や交流に関わる機会があれ

ば、参加したいと思う」に対し、92.0%の方々が肯定的回答をしている。近隣の保育園・幼稚園との昔遊び交流会(1年生)、芦花公園花の丘活動(2年生)、地域安全マップ作り(3年生)、紙漉き体験(4年生)、米作り(5年生)、リアル職業調べ(6年生)など、各学年で地域の一員として子ども一人ひとりが活躍できる場などの学校と地域が連携した活動の継続に今後も期待する。

○「学校運営委員会」については、自己評価報告書でも「本校では、学校運営委員会の活動について十分な情報が提供されている」において、肯定的回答が98.0%(昨年比+7.3ポイント)にもなった。職員会議で情報提供されているとのことで、評価が上がったと思われる。「サマーワークショップ」等の学校運営委員会事業に先生方も参加されたとの報告もあった。今後もPTA・地域と連携を強化していただきたい。

(4)『キャリア・未来デザイン教育』(せたがや探究的な学び)の推進

○「教育課程」では、4年生以上の国語のモジュール学習の実施について、また、週1回は『学級の時間』を設定されたことの報告があった。子どもたちが進んで参加できる学級の時間として今後も継続していただきたい。

○「学習指導」では、全児童にタブレット端末が導入されて4年目となり、ICTを活用した授業が増えていること、児童が使いこなせるような指導やインターネットの使い方のルールなどの指導もしっかりされているとの報告があった。現在、ロイロノート、Teams、Qubenaは、中学校や高等学校でも使用されるようになってきているが、設定やメンテナンス等に関する保護者へのフォローも引き続きお願いしたい。

○「生活指導」では、「いじめや不登校の未然防止や早期対応」に努めていること、本校の小・中施設一体型校舎の利点を生かし、「ノーチャイムの学校生活により、時間を守って生活を送る」ことを、今年度も継続しているとの報告があった。クラス担任だけでなく、学年や学校全体で取り組んでいることを全保護者、地域にも発信を行い、今後も取り組みを続けていただきたい。

○「学校行事」では、久しぶりの全学年揃っての運動会、芦花小学校としては初めての音楽会(歌と合奏)のほか、校外学習も感染対策を講じて行うことができたとの報告があった。子どもたちにとって、芦花小学校生活の思い出のひとつとして残るよう、芦花小学校だからできる独自の取り組みを今後も期待したい。

○「キャリア教育」の推進として、「キャリア・パスポート」の活用を今年度も行い、自己の成長を感じられるように進めているとの報告があった。特別活動を学級で行う中で、人とかかわりを通して、一人一人が社会の担い手となるように子どもたち自身が課題に向き合い、思い描いた未来を実現できるように保護者・地域として先生方と共に見守っていききたい。

○『芦花の学び舎』による学校運営では、一体型校舎だからできる交流活動が実施されたとの報告があった。自己評価報告書では「本校では学び舎の中学校との交流が活発である」で、95.0%の肯定的意見があり、芦花中学校の先生方との交流が合同協議会以外でも行われていることが分かった。児童アンケートの「学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある」では、6年生になると77.6%の肯定的回答があり、芦花中学校への授業やクラブ体験なども実施され、つながりやあこがれが感じられることがアンケートの結果から読み取れた。一方で、「区立中学校に関する情報が提供されている」では、肯定的回答が56.4%(昨年比+4.2ポイント)、否定的回答が18.6%で、分からないと回答した児童は25.0%であった。また、保護

者アンケートの「本校は、近隣の(幼)・小・中学校で構成する『学び舎』による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている」では、肯定的回答が61.4%(昨年比+2.9ポイント)、否定的回答が20.8%、わからないという回答が17.8%である。今後は、移動時間ゼロの一体型校舎の強みをもっともっと生かした交流をすすめて欲しい。

(5)危機の予測・回避・管理

○「学校の安全性」については、校舎内の安全性も含め、児童には月1回の安全指導を行っている。また、芦花中学校との合同避難訓練を実施し、中学生が安全に対して手本となる行動を示してくれることが「芦花小学校の安全が維持できている要因」との報告があった。昨年度から、学校主業務委託をしている株式会社ソシオ職員による清掃・整備、登下校時の安全指導も行き届いているとの報告があった。芦花小学校独自の「ヒヤリハット」の活動も児童の意識向上につながるため、情報を共有いただき、保護者・地域でも協力して見守っていききたい。

Ⅲ まとめ

今年度は、『学校支援地域本部』、『シチズンシップ教育研究協力校』実施校として、取り組まれたことや、特別活動や行事が復活できたとの報告もあり、これまでに引き続き、芦花小学校の先生方が、子どもたちのために目を向けて指導されていたことが、自己評価報告書からも分かった。

今年度の芦花小学校学校関係者等アンケートについては、音楽会終了後に児童に対し配付・回収し、保護者へも配布から回収までの期間を記憶の新しいうちに設定できるよう実施した。結果として、回収率は高率となり、昨年度と同様、総じて肯定的な意見が得られ、学校施策に対する信頼と理解が、年々深まっていることが分かった。

今後も、この水準を維持していただくことを願い、そのためにも、これまでの活動を継続・強化するとともに、新たな試みについても取り組んでいただくことを希望する。子どもたちそれぞれが、「仲間とのかかわり」、「自然とのかかわり」、「本とのかかわり」に取り組むことで成長し、学校生活を安全に楽しく豊かに過ごせるようにご尽力いただきたい。

最後に、子どもたちへの更なるきめ細やかな指導・気配りを継続するためには、保護者・地域の協力が、今後でも不可欠である。石田校長先生の下、先生方が一丸となって教育活動を推進できるよう取り組んでいただき、芦花小学校の子どもたち全員が、これからも「芦花のまちが好き!」、「芦花小学校が好き!」と言えるよう、保護者・地域としても応援していききたいと思う。

以上

令和5年度 学校関係者評価アンケート集計結果

I. 学校関係者評価アンケート

I. アンケートの集計方法

回収したアンケートは、対象及び設問ごとに単純集計した。各設問の評価項目「とても思う」、「思う」、「あまり思わない」、「思わない」、「わからない」の5項目のうち、「とても思う」と「思う」を「肯定的意見」として、「あまり思わない」と「思わない」を「否定的意見」として加算集計し、「わからない」及び「無回答」は「不明」として集計した。

II. 児童による評価結果（表1）

全30項目のうち、肯定的意見が80%以上だった設問項目は20項目であった。否定的意見が20%以上だった設問項目は8項目、不明が20%以上だった設問項目は1項目であった。

肯定的意見は、学習指導5項目のうち4項目、生活指導3項目、学校行事2項目、教員に関する3項目の全項目に加え、学校生活は楽しい、学校が好きの2項目及び学校独自に設定した10項目のうち、「タブレットを使った授業で、『できた』『わかった』と思えることが増えた」、「友達を大切にしている」、「家族は私の話をよく聞いてくれる」、「芦花の町の人たちが授業や行事を支えてくださっていることを知っている」、「学級会をしてみんなで決めたことを実現するのが楽しい」の5項目であった。

否定的意見は、「自分の生き方や将来のことについて考える授業がある」、「区立中学校に関する情報が提供されている」、「家庭で宿題やeラーニング学習をしている」、「塾で学習している」、「学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある」、「自らすすんで授業に参加している」、「芦花っ子タイムを楽しみにしている」、「自分からあいさつしている」の8項目であった。なお、「区立中学校に関する情報が提供されている」については、不明が3割を超えていた。

2022年度の調査結果との比較において、変化を認めた項目は、次の2項目であった。「学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある」では、2021年度に比べて肯定的意見が10.7ポイント高く、否定的意見が7.7ポイント、不明が3ポイント低かった。「私は芦花っ子タイムを楽しみにしている」では、肯定的意見が7.7ポイント高く、否定的意見が10.1ポイント、不明が2.4ポイント低かった。

III. 保護者による評価結果（表2）

全41項目のうち、肯定的意見が80%以上だった設問項目は21項目であった。否定的意見が20%以上だった設問項目は11項目であった。不明と回答された設問項目のうち20%以上は5項目で

あった。

肯定的意見は、学校行事2項目及び学校の安全性3項目の全項目、学校からの情報提供5項目のうち3項目、学習指導4項目のうち2項目、生活指導2項目のうち1項目に加え、子どもの意欲を大切にしている、丁寧に指導している、学校生活は子どもにとって楽しい、教育活動に満足している、校長をはじめ教職員は協力して教育活動に取り組んでいる、私は学校公開にすすんで参加している、の6項目であった。

否定的意見が30%以上40%未満は、「自分の子どもは、家で本を読んでいる」、「『脱ワンワード』の取組を通して、子どもと大人のコミュニケーションが増えている」、「子どもは、家庭で自主的に学習をしている」、「私は、今年度の学校重点目標を理解している」、「『学び舎』の区立(幼稚園)中学校について情報が提供されている」、「私は、学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している」、「自分の子どもは、毎日すすんであいさつをしている」、の7項目であった。20%以上30%未満は、「本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている」、「自分の子どもには、地域に言葉を交わせる顔見知りがある」、「自分の子どもは、体を動かすことが好きである」、「本校は、近隣の(幼)・小・中学校で構成する『学び舎』による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている」の4項目であった。また、「『学び舎』の区立(幼稚園)中学校について情報が提供されている」は、不明が20.2%、「本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている」は、不明が27.7%であった。

2022年度の調査結果との比較において、変化を認めた項目は、次の10項目であり、全て肯定的意見の割合が高くなった。10項目の内訳は、高い順に、「本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」9.9ポイント、「『学び舎』の区立(幼稚園)中学校について情報が提供されている」9.7ポイント、「本校は、地域に情報を提供している」8.3ポイント、「本校は、丁寧に指導している」7.9ポイント、「本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している」6.8ポイント、「地域・保護者の授業や行事への参観・協力を通して、子どもの教育環境がよりよくなっている」6.7ポイント、「教育活動に満足している」6.5ポイント、「子どものことを相談しやすい」5.4ポイント、「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」5ポイント、「私は、学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している」が4.8ポイントであった。

IV. 地域関係者による評価結果(表3)

全18項目のうち、肯定的意見が80%以上だった設問項目は9項目であった。否定的意見が20%以上だった設問項目は1項目、不明と回答された設問項目のうち20%以上は、2項目であった。

肯定的意見は、割合の高い順に、「学校からのお知らせ(学校だより)などにより、学校の様子が分かる」、「学校の活動や交流に関わる機会があれば、参加したいと思う」、「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」、「学校行事の内容は充実している」、「事前の準備や当日の案内などで地域への配慮がある」、「学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子が分かる」、「学校の重点目標が明確である」、「学校は、安全性を高めようと地域と協力している」、「芦花小学校は、サマワークショップ・あいさつキャンペーンなど大人と子どもがふれあう活動に力を入れている」であった。

否定的意見は、「芦花小学校の子どもたちは、地域の方々とあいさつをしている」、不明は、「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている」、「地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している」であった。

以上